

兵庫医療大学
社会学連携推進機構
2016年度報告書



兵庫医療大学
社会学連携推進機構

はじめに

兵庫医療大学・社会学連携推進機構は、裏表紙に記した地域社会と本学の連携活動に関わる方針「社会学連携ポリシー」に基づき、大学の重要な使命の一つである「社会貢献」を全学的に推進しています。開設以来2年余りですが、本機構の取り組みが評価され、平成27年度に続き平成28年度も私立大学等改革総合支援事業タイプ2「地域発展」とタイプ3「産業界・他大学との連携」に採択されました。補助金を受けることにより、社会学連携の実践環境をより一層充実できます。実践環境が充実すれば、より良い社会学連携活動に取り組めます。スパイラルアップを持続していくためには、やはり自己点検・評価が必要です。本報告書には、PDCAサイクルの一環として、平成28年度の社会学連携推進機構の活動状況ならびに平成29年度に向けた活動目標を取りまとめました。本学のアドバイザリーボード、連携・協力機関、そして地域の皆様には、是非、ご一読の上、忌憚のないご助言・ご意見を賜れば幸いです。

2016年度の活動報告

地方創生を目指して

兵庫県「平成28年度 学生等による地域貢献活動推進事業」に、薬学部東洋医薬部門の研究室やゼミに所属する学生達の企画が採択されました。薬学部5年・池田実姫さんをリーダーとする21人の学生達が、丹波市山南町において、トウキ栽培を体験したり、「さんなん和田 漢方の里まつり」の運営を支援したりしました。新聞記事によると、学生達は、漢方紹介ポスターの展示と創作トウキ料理の試食会を行い、漢方の里まつりを大いに盛り上げたようです。



また、薬学部・教員チーム「薬活オウルズ」（代表・前田初男、青木俊二、戴毅、岩岡恵実子、石崎真紀子）の「もっと兵庫の薬草を知ろ

う・広めよう・味わおうプロジェクト」が兵庫県「平成28年度 大学等との連携による地域創生拠点形成支援事業」に採択されました。同プロジェクトの拠点を丹波市薬草薬樹公園内に開設し、平成29年度から本格的に活動に取り組めます。なお、平成29年3月5日に同公園内にて開催したキックオフ・シンポジウムには約350名の地域住民が集い、同プロジェクトの活動目的などについて地域との情報共有が図られたようです。



地域医療を担う人材の育成

兵庫医療大学ポーアイ・コモンズおよび篠山コモンズをサービス・ラーニングの場として活用し、地域医療を担う人材の育成に取り組んでいます。ポーアイ・コモンズでは「兵庫医療大生による健康チェック体験」を本学主催の公開

講座後に開催しました。篠山 commons では篠山市主催の健康教室「お試しクラブ～いきいきデカボー体操～」などを支援しました。これらの活動には、毎回 20 名以上の地域住民が参加しました。表 1 は平成 28 年度サービス・ラーニングの実施実績です。なお、篠山 commons での活動は、篠山市におけるサービス・ラーニングの実践について、平成 28 年 8 月 1 日に本学と篠山市健康福祉部とが締結した協定に基づくものです。

表 1. 平成 28 年度 兵庫医療大学ボーアイ・commons / 篠山 commons におけるサービス・ラーニングの実施実績

日 時	commons	参加学生
6 月 25 日 (土)	ボーアイ	7
8 月 12 日 (金)	篠山	5
9 月 2 日 (金)	篠山	1
9 月 6 日 (火)	篠山	1
9 月 16 日 (金)	篠山	3
9 月 17 日 (土)	ボーアイ	4
3 月 12 日 (日)	篠山	4
3 月 18 日 (土)	ボーアイ	4



平成 28 年度も「私立大学等改革総合支援事業タイプ 2」に採択されましたので、「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」により両 commons を整備しました。篠山 commons には全自動血圧計と内臓脂肪計を新たに設置し、本学だけでなく篠山市健康福祉部の活動環境をより一層充実しました。また、本学と神戸市中央区保健福祉部との連携に基づいたサービス・ラーニングを実践するため、物忘れ相談プログラムを導入しました。



共同研究・受託研究の推進

表 2 に平成 28 年度に実施した共同研究・受託研究をまとめました。平成 27 年度からの継続研究が 5 件、平成 28 年度から開始した新規の共同研究 8 件と受託研究 2 件です。

その中で、摂南大学との共同研究は、本学初の取り組みです。この研究により開発されたチーム・ベイスド・ラーニング (TBL) プログラムは、薬学部の初年次教育に活用されています。また、研究担当者の薬学部・清水忠と摂南大学・薬学部・安原智久先生は、日本薬学会第 132 年会において、平成 29 年 3 月 25 日 (土) に開催されたシンポジウム「薬学生・薬剤師に実践的な EBM 教育を進めていこう！」のオーガナイザーを務めました。TBL などの新しい教育方法が注目される中、本シンポジウムは、立ち見が出るほど大盛況でした。

なお、他の共同研究・受託研究については、

連携先機関等との守秘契約等のため、取り組んでいる共同・受託研究の課題名、テーマ等は記載していません。どうか、ご理解の上、ご容赦いただければ幸いです。

表 2. 平成 28 年度 共同・受託研究一覧

	共同・受託研究機関	学内担当者 *
平成 27 年度から継続	国立研究開発法人 理化学研究所（共同研究）	薬・教授 戴 毅
	サントリーグローバル イノベーションセンター （共同研究）	共セ・講師 土江 伸誉
	国立大学法人 浜松医科大学 （共同研究・課題 1）	薬・講師 中野 博明
	国立大学法人 浜松医科大学 （共同研究・課題 2）	薬・講師 中野 博明
	寺尾製粉所（受託研究）	薬・教授 青木 俊二
新規	株式会社 西山酒造場 （共同研究）	薬・教授 前田 初男
	摂南大学 （共同研究）	薬・講師 清水 忠
	千寿製菓 （共同研究）	薬・教授 田中 明人
	株式会社パナソニック （共同研究）	リハ・准教授 坂口 顯
	ユニ・チャーム株式会社 （共同研究）	リハ・教授 川口 浩太郎
	株式会社ユニバル （共同研究）	リハ・講師 塚越 累
	白鷗株式会社 （受託研究）	薬・准教授 前田 拓也
	株式会社ビーテンド （受託研究）	リハ・教授 川口 浩太郎
	クオール株式会社 （共同研究）	薬・教授 天野 学
	株式会社 阪神調剤薬局 （共同研究）	薬・教授 天野 学

* 薬：薬学部、リハ：リハビリテーション学部、共セ：共通教育センター。

「ひとづくり」支援

平成 28 年度も、生涯学習やリカレント教育などの学びの場を地域の住民ならびに医療専門職者に提供しました。

薬学研究科が担当している「臨床薬剤師生涯教育ステーション」は、薬剤師生涯学習セミナーとして「武庫川・ポーアイ EBM 倶楽部」（薬学部・講師・清水 忠）を平成 28 年 4 月 10 日と平成 29 年 1 月 9 日に、「服薬指導に活かせる薬物動態」（薬学部・教授・天野 学）を平成 28 年 10 月 22 日に、グランフロント大阪北館ナレッジキャピタル・アクティブスタジオにて開催しました。本学の卒業生や地域の薬剤師の先生方に参加いただきました。



一方、看護学研究科が担当している「シームレス看護教育ステーション」では、文部科学省認定「職業実践力育成プログラム (Brush-up Program: BP)」として、「在宅看護実践力育成プログラム」を開講し、14 名の修了者に対して履修証明書を発行しました。また、医療科学研究科が担当している「リハスタッフ臨床教育ステーション」では、BP として、「PT・OT 臨床カスステップアッププログラム」を開講し、13 名の修了者に対して履修証明書を発行しました。

平成 29 年度は「在宅看護実践力育成プログラム」を 15 名（3 名の再受講者を含む）が、「PT・OT 臨床カスステップアッププログラム」を 7 名が受講する予定です。なお、これらのプログラムでは、業務多忙な現役の看護師または理学・作業療法士が受講しやすいように配慮しています。本務の都合上、プログラムの一部を

受講できなかった場合、次年度に「再受講者」として受講できます。

その他、本機構が主催した主だった講演会、セミナー等を表3に示します。

表3. 平成28年度に実施した講演会、セミナー等

開催日	講演会、セミナー等の演題 (担当者*)
4月30日(土)	光と色の不思議な世界へようこそ！(薬・石崎 真紀子)
6月11日(土) 7月9日(土) 10月15日(土) 12月17日(土) 3月22日(水)	クリニカル・カフェ： 対話の中で考える生老病死 (共セ・紀平 知樹)
6月25日(土)	地域住民の健康は 薬剤師が守ります！ (薬・村上 雅裕)
7月2日(土) 7月9日(土) 9月3日(土) 9月24日(土)	ナイチンゲールの 「看護覚え書」を読む (看・魚崎 須美)
7月8日(金)	惑星のふしぎ (共セ・加藤 精一)
7月14日(木) 7月15日(金)	体力測定会 (看・土井 有羽子、魚崎 須美、 足立 安正)
8月27日(土) 9月3日(土) 9月10日(土)	がん患者・家族のグループ サポートプログラム 「おしゃべりカフェ」 (看・府川 晃子)
9月17日(土)	脳卒中予防 (看・鈴木 千枝)
10月15日(土)	あなたも平和のねこと一緒に 健康と平和について感じたり、 考えたりしませんか？ (薬・桂木 聡子)
10月15日(土)	認知症になってもできるだけ 自分らしく過ごすために (看・土井 有羽子)
10月22日(土) 12月3日(土) 1月28日(土)	リラクゼーションを取り入れた 健やかな生活を目指して (看・鈴木 みゆき、竹田 千佐子)
10月29日(土)	介護する人・される人から 「おたがいさま」の関係へ (リハ・佐野 恭子)

11月5日(土)	ノーベル賞とわたしたち (朝日新聞・竹石 涼子)
11月8日(火) 12月17日(土)	いつまでも自分の口から 食べ続けるために (薬・桂木 聡子)
12月17日(土)	さまざまな人にやさしい お薬手帳をデザインする (薬・石崎 真紀子)
1月28日(土)	人生の最終段階の過ごし方 (島田病院・島田 永和)
2月9日(木)	生涯現役のための面白健康科学 (京大名誉教授・森谷 敏夫)
2月16日(木) 3月2日(木) 3月9日(木) 3月16日(木) 3月23日(木)	介護予防推進サポーター 養成プロジェクト (リハ・永井 宏達)
2月24日(金)	障がい者との共生社会を考える (東大・先端科学技術研究センタ ー・准教授・長尾 光城)
3月11日(土)	生涯現役で生き抜くために (兵庫大・健康科学部看護学科・ 教授・長尾 光城)
3月18日(土)	健やかに生きる (共セ・末廣 謙)

* 薬：薬学部、看：看護学部、リハ：リハビリテーション学部、共セ：共有教育センター。

「ものづくり」支援

平成27年度「私立大学等改革総合支援事業タイプ3」に採択されました。それに伴い、「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」としてLC/MSとGC/MSを新たに導入し、学内にプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)ラボラトリーを開設しました。平成28年度も同ラボラトリーを卒業研究に取り組んでいる薬学部5・6年生のPBLの場として活用しました。題材としては、黒豆茶、キンセンカ茶、トマトパウダーなどを扱いました。

一方、本学と株式会社ワールドは、平成27年度に医療ウェア開発に関する連携協定を締結し、ワールドと社学連携推進機構および看護学部が「神戸スクラブ」の協働開発に挑みまし

た。この取り組みに、平成 28 年度から株式会社ナガサワ文具センターも参画し、神戸ボルドーと港島ブルーの 2 色からなる「神戸スクラブ」の共同開発に成功しました。平成 28 年 10 月から販売が開始され、現在も、好評販売中です。



「まちづくり」支援

平成 28 年 5 月に兵庫県立こども病院がポートアイランドに移転してきました。これに伴い、ドナルド・マクドナルド・ハウス神戸が、同病院に隣接して設立されました。本学公認サークル「ポーアイ多職種連携学生ネットワーク（ポーアイネット）」の学生達がボランティアとして同ハウスの運営を支援しています。また、ポーアイネットの学生達は、ポートアイランド内のチャイルド・ケモ・ハウスの活動も支援しています。10 月 13 日に開催された小児がん患者さん 17 組の「キッザニア甲子園」訪問を 15 名の学生たちがサポートしました。これからも、学生達による「医療のまち」づくりを、社学連携推進機構として支援していく所存です。

なお、チャイルド・ケモ・ハウスとは、平成 29 年 2 月 1 日に連携協定を締結しました。

2017年度の活動目標

地方創生をめざして

学生団体だけでなく、薬学部の教員チーム「薬活オウルズ」も兵庫県から助成を受け、丹波市にて積極的に活動しました。昨年度より、

地方創生に取り組めたと考えています。平成 30 年まで兵庫県の助成を受けながら「薬活オウルズ」は活動を続けていく予定です。丹波市における地域創生が実質的になるように、来年度以降、社学連携推進機構は「薬活オウルズ」の活動を支援する所存です。

地域医療を担う人材の育成

平成 27 年度に立てた平成 28 年度の到達目標「ポーアイ・コモンズと篠山コモンズを 3 回ずつ以上活用する」は達成し、学生達のサービス・ラーニングを予想以上に実践できました。来年度は「ポーアイ・コモンズと篠山コモンズの活用回数を 3 回ずつ以上、それぞれの活動への学生参加数を平均 3 名以上」を目標として、サービス・ラーニングを活用した人材育成に取り組んでいきます。

共同研究・受託研究の推進

昨年度に立てた平成 28 年度の目標は「①新たに 3 つ以上の共同研究・受託研究を開始すること、②それらの研究を大学として支援するため教育・研究環境整備方針を本学の関連委員会と一緒に提言すること、そして③平成 27 年度から着手した共同研究・受託研究において成果を上げること」でした。

目標①は達成しましたが、目標②は全く取り組めませんでした。目標③は、「神戸スクラブ」の開発により達成できたと考えます。しかし、目に見える成果が上がっていないだけでなく、評価指標が不明確であるため、他の共同研究・受託研究の評価が困難でした。そこで、平成 29 年度は、教育・研究環境整備方針の提言と、共同研究・受託研究の実績評価に関する枠組みづくりに取り組みたいと考えています。

「ひとづくり」支援

平成 28 年度も、講演会、セミナー等を通して、多くの地域の住民・医療専門職者に学びの場を提供できました。新しい取り組みである BP も無事に開講でき、履修した受講生にも好評でした。しかし、時代のニーズを踏まえ、BP、講演会、セミナー等の内容も検討する必要がありますと考えています。この観点から、平成 28 年度の目標として、『本学の「ひとづくり」支援をより充実するため、社学連携アドバイザーボードを設置し、本学の取り組みに対して学外連携機関の助言をいただくこと』を掲げていましたが、実践できなかったことは、反省点です。平成 29 年度はアドバイザーボードを設置するだけでなく、外部有識者の助言を仰ぐ場を持つことを目標に設定します。

「ものづくり」支援

兵庫県内で「ものづくり」に取り組む地域企業の寺尾製粉所や西山酒造場との共同研究に取り組みました。また、ワールドとナガサワ文

具センターと連携し、医療ウェア「神戸スクラブ」を共同開発し、10 月から販売しています。

これらの活動内容と成果は、昨年度に立てた目標を達成しています。来年度も、少なくとも一つの「もの」づくりの実現を目標として掲げ、地域活性化に取り組んでいきます。

「まちづくり」支援

平成 28 年度の目標は、「ポーアイ多職種連携学生ネットワーク」や 3 学部の学生が能動的に活動できる枠組みを作ることでした。社学連携推進機構は、行政だけでなく、チャイルド・ケモ・ハウス、ドナルド・マクドナルド・ハウス神戸と積極的に連携することにより、本学の特色を活用した「医療のまちづくり」に学生達に取り組めるプラットフォームを構築できたと考えています。来年度は、ポートアイランド「医療のまちづくり」だけでなく、丹波市における「まちづくり」も積極的に支援することを目指し、「ポーアイネット」の学生達と協働していきます。

社学連携推進機構 2016 年度報告書

発行日 平成 29 年 5 月

発 行 兵庫医療大学
社学連携推進機構

〒650-8501 兵庫県神戸市中央区港島 1-3-6

TEL 078-304-3021

【兵庫医療大学 社会学連携ポリシー】

①地方創生をめざして

兵庫県は、他の地方自治体と同様に、少子高齢化、転出超過などの問題に直面しています。これらの問題点を解決するため、兵庫医療大学は、兵庫県ならびに県内の市町村と協働し、本学の知と経験を地方創生のために積極的に活用していきます。

②地域医療を担う人材の育成

超高齢社会に突入した日本では、今後さらに、地域医療の充実が求められます。兵庫医療大学は、地域社会から地域社会とともに学ぶ双方向型教育研究を実践し、高度医療専門職者として地域に根ざして地域医療を担う人材の育成に取り組めます。

③共同研究・受託研究の推進

科学技術創造立国を目指す日本において、大学の研究活動に大きな期待が寄せられています。兵庫医療大学は、本学の知的財産などの様々な研究成果を活用する共同研究・受託研究を推進し、大学の知と経験の社会還元積極的に取り組んでいます。

④「ひとづくり」支援

「21世紀兵庫長期ビジョン」において兵庫県は、県民主役・地域主導による一人一人が元気な成熟社会を目指しています。兵庫医療大学は、この兵庫県の取組みを支援するため、高大連携、生涯学習、リカレント教育などの学びの場を積極的に提供し、地域社会における「ひとづくり」に、持続的に取り組んでいます。

⑤「ものづくり」支援

医療や健康づくりをキーワードとして「ものづくり」に取り組んでいる在兵庫企業は、独自技術の未活用、科学的根拠の不足など、様々な課題を抱えています。兵庫医療大学は、本学の知と経験を活用することにより、それらの企業が直面する課題の解決を目指して協働し、地域社会における産業イノベーションを積極的に支援します。

⑥「まちづくり」支援

「ひとづくり」と「ものづくり」だけでなく、「まちづくり」も大学に求められている社会貢献の一つです。兵庫医療大学は、兵庫県、県下の市町村、そして地域社会と協働しつつ、教職員だけでなく、学生達の地域活動への参加を促進し、大学の知と経験を活用した「まちづくり」に取り組んでいます。